



このコーナーは、文書館に保存している古い写真を皆さんに紹介します。

※文書館では、まちの風景や催事などの古い写真を収集しています。原本はお返ししますので、情報の提供をお願いします。【文書館 ☎63・1010】



懐かしの1枚  
磯菜天神

昭和28(1953)年以前仁尾町  
(三豊市指定名勝)

磯菜天神は、かつては現在地よりも沖合の小島にあったが、その地が水没したため康和年中(1099~1104)磯菜島に再興され、磯菜天神と呼ばれるようになった。大正年間の塩田築造の頃から徐々に埋め立てられ、昭和28(1953)年の仁尾港完成により完全に陸続きとなった。

「思い出のページ」

「私が小学生だった昭和の初めごろ、写真の手前に見える海岸はきれいな砂浜でした。潮が引くと、磯菜天神まで歩いて渡れていたんですよ」と、当時の思い出を語るのは、仁尾町の塩田忠義さん(97)。  
「地元の人が、天神さんの祭り」と呼ぶ、磯菜天神の春の大祭のときには、習字の作品を書いて神社まで持って行きました。ハナとかハトとか、小学校で習ったカタカナを書いてね。個人個人が持って行って神社の中の壁に貼っていくんです。あの頃は、上手に書いた作品には先生が赤で丸を付けてくれていたんですよ」  
磯菜天神の春の大祭は今でも4月下旬の日曜日に開催されており、小中学生による習字の作品の展示も続いています。  
「昔は、お祭りの日は4月25日と決まっていた。潮が満ちているときには、宮司さんがご神体を船に乗せて港まで移動し、そこから大北の荒神さんまで歩いて行きます。そこで豪華な御車に移します。私の子どものころは牛が御車を引っ張っていましたが、そして御車が通るときに、みんなで神様を拜む

んです。荒神さんに着いた後は、街中を通って南にある磯野天満宮まで御巡幸していました。このお祭りは今も続いています。昔の名残を残して、今は船にご神体に乗せて仁尾港の中を回っていますよ。それから大北の荒神さん、南の磯野天満宮まで巡るのは変わっていません。時代の流れで、風景はうんと変わりましたが、昔のお祭りがそのまま続いているんです」

塩田さんは、10年前まで磯菜天神の世話人を約15年間続けていました。時代を経ても守り続けられる文化があることを教えてくださいました。



編集  
後記

いよいよ粟島で瀬戸芸が始まります。市役所女性職員有志で結成するみとよ女子部では、三豊市をPRするためにポロシヤツを作りまし。大きな「みとよ愛」を背負っているデザインです。瀬戸芸の時にスタッフが着ているかも…。ぜひ注目してみてください。